

最終報告

(報告期間2017年7月7日～2018年10月6日)

基本情報

派遣クラブ：広島西ロータリークラブ
カウンセラー：加藤 博基 氏
受入ホストクラブ：Rotary Club of Brighton & Hove Soiree
カウンセラー：Chris Wellings

国際ロータリー第2710地区
2017-2018年度グローバル補助金奨学生
藤原周平

報告書提出日：2018年10月7日

E-mail：shujkl@gmail.com
連絡先電話番号：+44 7754 756 824
教育機関・専攻分野：サセックス大学大学院
国際教育と開発専攻（修士課程）
University of Sussex
MA in International Education and Development

目次

1. 学業面での成果
2. 参加したロータリー活動、プロジェクト内容
3. 直面した課題、問題点等
4. 今後の課題、キャリア目標
5. 今後のロータリー活動への参加
6. 今後の奨学生への提言
7. その他特記事項

1. 学業面での成果

8月末に修士論文を提出しました。前回の報告書で書きましたように、論文内容として、ナイジェリア北部のボコハラムという武装過激派組織に焦点を当て、彼らがなぜ現れたのか、彼らの教育に対する考え・論理はどのようなものか、そして彼らの活動による教育システムへの影響について書きました。武装過激派組織の発生は、国内の政治経済社会的な要因が、その組織の発生素地を形成していると文献からは推察されましたが、ナイジェリアのボコハラムの場合も同様で、国内の政治的腐敗、著しい経済格差や失業、基本的な公共社会サービスの欠如などが、特定の地域の人々に激しい怒りを生み出していることが分かりました。さらに、ボコハラムによる西洋教育の徹底的な排除は、彼らの政治活動の中心であり、民衆の支持を得るための戦略でもあることがわかりました。歴史的にナイジェリアの北東部では、イスラム教による統治が行われていましたが、イギリスによる植民地支配によってそれが崩れました。植民地支配によって導入された少数への西洋教育によって、エリートが育てられ、大多数の人々が得るべき利益を独り占めしているという見解が一般大衆の間では常識となっています。現在は、多くの人々が西洋教育の必要性を認める一方で、西洋教育が現在の腐敗した政治経済社会状況を作り出した元凶であるとも見られています。ボコハラムは、この一般大衆心理を利用し、一部分の人々から支持を得ることに成功しています。このように、格差の激しい政治経済社会状況は、過激な組織が支持を得て、拡大しえる素地があると言え、教育は、その要素の一つと考えられます。

2. 参加したロータリー活動、プロジェクト内容

7月上旬に、ユニセフカメルーン事務所でのインターン準備のため、日本に帰国しました。そのため、今回の報告期間（7月7日～10月6日）で、参加したロータリー活動はありません。

3. 直面した課題、問題点等

ユニセフカメルーン事務所でのインターンを行いながら、修士論文を書くことは挑戦でした。ただ、カメルーンで働き始めるまでに、ある程度執筆が終了し、残りの部分についても、やるべきことが明確だったため、毎週土日を活用し仕上げることができました。内容については、指導教授からコメントをもらうだけでなく、複数のクラスメイトからも改善点について指摘をもらい、改善に努めました。また、文法的な観点からも、ネイティブのクラスメイトから指摘をもらい、時間の許す限り修正を繰り返しました。結果は、今月下旬に正式に発表される予定です。

4. 今後の課題、キャリア目標

直近の目標は、教育、子供の保護、コーディネーション等の分野で緊急人道支援に関わっていくことです。特に、NGOの海外事務所で働くことを検討しています。現在、ユニセフカメルーン、ヤウンデ事務所でインターンを行っていますが、プロジェクトの実施は、多くの場合、NGOが担っていることを知りました。ユニセフ

は、NGOによるプロジェクト実施の管理が主な業務で、より効果的な緊急人道支援を行うために、NGOを支援しています。この事実を知り、国際機関でリーダーシップを持って緊急人道支援に関わっていくためには、一度NGOに所属し、各国政府、国際機関や日本大使館とともに、何らかのプロジェクト実施を経験することが、私の将来にとって有益なのではないかと考えるようになりました。そのため、現在は、緊急人道支援の文脈で働けるNGOの海外事務所を探しています。

長期的には、国際機関でリーダーシップを持って、緊急人道支援を主導していける存在になりたいと考えています。プロジェクトの始まりから終了まで、また現場レベルでの実施から事務レベルの管理まで、確かな知識と経験を活かして、全体を導いていける能力を身につけたいです。

5. 今後のロータリー活動への参加

今後は、学友会を通して、ロータリー活動及び学友同士の交流に関わっていきます。私自身、今後は海外、特に開発途上国での仕事が多くなりますが、学友会に所属する方々も同様だと思います。日本帰国時は、日本に滞在しているメンバーと交流し、近況の共有だけでなく、今後私達が取り組んでいけることについても話を深めていきたいと考えています。

6. 今後の奨学生への提言

事前にどのようなことを学びたいのかを出来るだけ明確にして留学するとより収穫の多い留学になるのではないかと思います。イギリス留学の場合、期間が1年と短く、9月に始まり5月または6月に講義は全て終了するという場合がほとんどです。私は、初めての留学経験だったからか、始まりの9月から11月にかけて、イギリスでの学習スタイルに戸惑いました。自分のペースでの学習を確立するのに、時間を要し、授業についていくことに必死でした。授業と並行して、留学を通して研究する内容を細かく決めて行く作業もあり、やるべきことに追われて、自由時間が十分にあるようで、あまりないように感じるが多かったです。留学前に、どのようなことを集中して学んで行くのかをより細かく決めておくことができれば、留学してからも、必要な情報と取捨選択して、より有意義な学びを実現できるのではないかと思います。

7. その他特記事項

所属する国際教育と開発学部の学生代表としての役割をこの1年間担ってきましたが、非常に良い挑戦ができたと考えています。普通の年であれば起こらない労働組合によるストライキが起り、3週間も授業が受けられなかったことに対する学生側の対応など、例年以上に学生代表として行動すべきが多かったです。自分自身、役割を全うできたかどうか分かりませんが、学業に専念しながら出来る限りの事はしたと考えています。今後も、機会を見つけて、自分なりに仕事でもプライベートでも何かにチャレンジする姿勢をもって歩んでいきます。